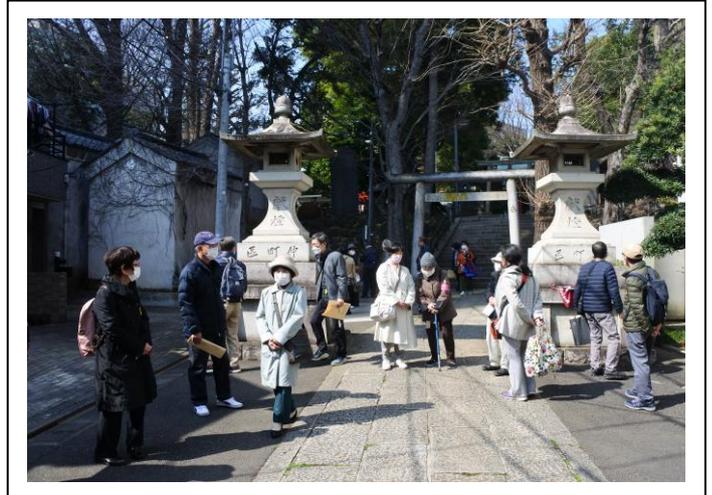


区内史跡めぐり「梅若能楽学院会館から桃園川緑道散策」

令和4年3月24日、午後1時30分から前日までの寒さはやわらぎ天気も良くなり、参加者20名で実施しました。

行程は、東中野駅西口広場から中野北野神社→梅若能楽学院会館→桃園川緑道→神田川を経て東中野駅東口までを散策し午後4時過ぎに解散しました。

中野氷川神社は、須佐之男命をお祀りし、太田道灌が豊島氏討伐の際に戦勝祈願したといわれています。また石段の上の鳥居は、鍋屋横丁の語源となった現在のみずほ銀行のところにあったお茶屋「鍋屋」当主鍋屋勘右衛門寄贈によるものです。



梅若能楽学院会館では、梅若幸子さんによる梅若会の歴史や能についての説明を受け、ご子息による「高砂」の舞を見学後、舞台に上げていただくことが出来ました。



舞台上に上がるには、本来は白足袋で上がらなくてはいけないということですが、当日は梅若会のご厚意で白足袋ソックスを用意していただき参加者は履き替え舞台上に上がらせていただきました。

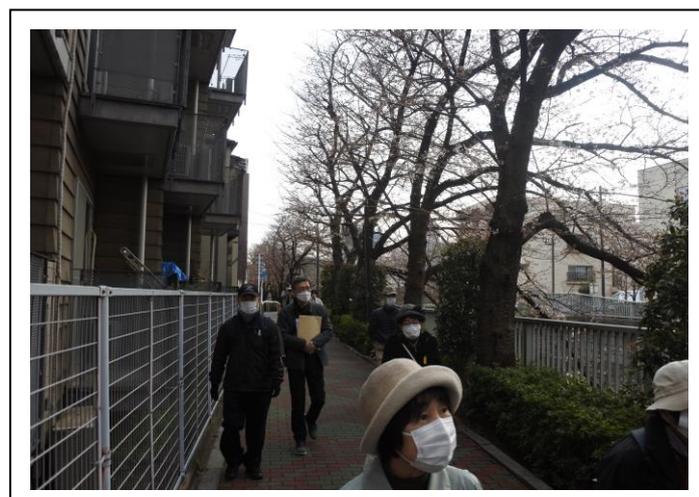


見学者みんなですり足にて橋掛かりを通り本舞台まで歩き少しだけ能を体験しました。そして舞台上で女面の小面や般若の面そして衣装を見せていただきました。



例年8月に、面や衣装の虫干しをされるそうです。見学可能とのことですので見学してみたい方はホームページを調べてみてください。

その後、桃園川緑道を経て神田川に。蓋掛けされた桃園川緑道の下は、現在下水道幹線として利用されています。それがわかる電光掲示板（緑道からの水位を表示）や合流地点の「神田川の歌碑」を見学後、桜の開花宣言後の冷え込みにより



神田川の桜の花を満喫しての思惑が外れ、まだ1分から2分咲きの桜の下を通り東中野駅東口で解散しました。